

氏名： 柴坂 寿子 (SHIBASAKA Hisako)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 理学博士 (1988 京都大学)
職名： 准教授
専門分野： 人間行動学、子ども行動学 (幼稚園・保育園での子どもの行動観察研究)
URL： <http://www.develop.ocha.ac.jp/>
E-mail： shibasaka.hisako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

幼稚園児／仲間集団／仲間関係／仲間文化／縦断観察
preschoolers / peer group / peer relationships / peer culture / longitudinal observation

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・大戸美也子・柴坂寿子・狩野理恵・佐藤嘉代子・武居裕子 (2007)
2歳児の発達と学び (その2) -排泄行為の自立形成期における支援の指標を探る-
日本保育学会第60回大会発表論文集, pp.684-685.
- ・倉持清美・柴坂寿子 (2007)
仲間入りのリテュアルな表現-各地域調査より
日本保育学会第60回大会発表論文集, pp.746-747.

◆研究内容 / Research Pursuits

幼稚園クラス集団の弁当時のルーティンが縦断的にどのように形成されどのような変化を取るのか、入園時からのビデオ資料、フィールドノート等を元に分析し、再構成した。この研究を学術論文としてまとめた。

第一に、ある公立幼稚園のクラス集団を入園から卒園まで2年間縦断調査したフィールドワーク資料 (収集済み) の分析を行った。

第二に、公立幼稚園において、2006年度入園のクラス集団のフィールドワークを引き続き行い、観察記録、保育者との話し合い記録を収集した。

第三に、特別教育研究経費「幼・保の発達を見通したカリキュラム開発」(代表：浜口順子助教授)により、子ども教育発達センター大戸美也子教授他と共同で、保育園2歳児の排泄行動について観察研究を行った。結果は第60回日本保育学会で共同発表した。

第四に、科学研究費「次世代育成コミュニティとしての大学における乳児保育施設の意義と可能性」(代表：浜口順子助教授)による研究を行った。

第五に、幼稚園児の仲間入りの決まり文句について、東京学芸大学・倉持清美准教授と共同研究を行い、第60回日本保育学会で共同発表した。

第六に、特別教育研究経費「幼・保の発達を見通したカリキュラム開発」(代表：浜口順子助教授)により、発達臨床心理学講座専攻科目「発達臨床基礎演習Ⅱ」の授業研究を、菊地知子講師・塩崎美穂講師と共同で行った。

◆教育内容 / Educational Pursuits

第一に、生活科学部 1・2 年生の学部共通科目の教育を行った。「児童学概論」、「人間関係学」で子どもを理解する基本的視点を講義した。

第二に、生活科学部・発達心理学講座の学生の専門教育を行った。「発達臨床基礎演習Ⅱ」において、子ども理解につながるエソロジー的観点について講義した。「発達臨床観察法」では観察法の基礎実習を行った。「発達社会文化論」では、園における子どもの行動について具体的事例を挙げながら講義した。「発達臨床論文演習Ⅰ・Ⅱ」で卒論の進捗状況報告や先行研究論文紹介を行わせ助言するとともに、卒業論文執筆及び口頭発表を指導・助言した。

第三に、全学の留学生特別科目「日本事情演習Ⅳ A」を担当し、自然科学系科目を学ぶ上での背景知識を講義した。

第四に、全学教職科目の「教職総合演習」を担当した。

第五に、人間文化研究科ライフサイエンス専攻では「比較行動学特論演習」で人間行動観察について基礎文献の講読・実習・演習を行った。また修論審査会で修論審査を行った。

第六に、人間文化創成科学研究科前期課程、保育・教育支援コースでは以下の科目を担当した。「子ども行動観察法演習」で現場の子ども行動の観察について講義・演習・実習を行った。また、「外書講読」(分担)を担当した。「人間発達科学論」で修論の中間報告に対して示唆を行った。

第七に、人間文化創成科学研究科後期課程人間発達科学専攻では、博論中間発表において示唆を行うと共に、後期課程入試における審査に携わった。

第八に、生活科学部・発達臨床心理学講座が中心に行った家庭科教員研修(文科省産業・情報技術等指導者養成研修:高等学校(家庭科))において講師のひとりを務めた。

第九に、葛飾区男女平等推進センター主催の人材育成講座「子育てと子育て支援」にて講師のひとりを務めた。

◆研究計画

第一に、幼稚園・保育園などにおける観察と分析を継続し、これらの集積から、幼児集団における仲間関係・仲間文化とその変容について考察を深める。第二に、特別教育研究経費「幼・保の発達を見通したカリキュラム開発」(代表:浜口順子助教授)における研究を、附属幼稚園、附属保育所の保育者及び本学保育系教員と協力し進める。第三に、科学研究費「次世代育成コミュニティとしての大学における乳児保育施設の意義と可能性」(代表:浜口順子助教授)における研究を進める。

◆メッセージ

幼稚園、保育園など、子どもたちの生活の場における行動を観察・記述・分析している。子どもたちが園で体験することの豊さにいつも驚き、それを研究を通して伝えていければと思っている